作　斜田　章大

登場人物

陽毬　日野陽毬（ひのひまり）　一九九九年七月三一日生まれ。獅子座。一九歳。
灯里　日野灯里（ひのあかり）　一九九四年六月二八日生まれ。蟹座。二五歳。
康介　人見康介（ひとみこうすけ）　一九八九年二月一〇日生まれ。水瓶座。三〇歳。
泉水　二兎泉水（にといずみ）　一九八八年八月三〇日生まれ。乙女座。三〇歳。
睦実　猫宮睦実（ねこみやむつみ）　二〇〇三年一〇月三日生まれ。天秤座。一五歳。
父　日野太一（ひのたいち）　一九七〇年六月二日生まれ。双子座。四九歳。
母　日野恵美（ひのめぐみ）　一九七一年一月一一日生まれ。山羊座。四八歳。

注釈

傍線部は被せて読むこと。

この作品は群読が多く使われています。便宜上、パート分け（〇人、男性、女性等）をした上で台本に記してありますが、演出の妨げとなるものではありません。

作中の『』で括られた箇所は、文藝春秋二〇〇九年四月号に掲載された、村上春樹氏のエルサレム賞受賞時のスピーチを翻訳のうえ引用しています。

作中に出てくる東日本大震災の死者数・行方不明者数は、二〇一一年のニュース映像という設定のため、二〇一一年三月時点の数字を使用しています。

サカシマ　【名・形容動詞】

1. サカサマに同じ。物事の上下・左右・前後・裏表などの関係が本来の状態とは反対になっていること。また、その様。

2. 道理に背くこと。あるいはその様。

幕が開く。幕は元から開いていてもいい。そもそも幕は無くたっていい。
明かりが点く。明かりは元から点いていてもいい。そもそも照明の無い舞台であってもいい。
なんにせよ、芝居が始まる。
しかし、しばらくの間は何も起きない。
あなた（観客）の集中力が極限まで高まるタイミングで……
天井（高ければ高いほどいい。少なくとも人間が落ちたら死に得る高さがいい）から、一つの卵が落ちてくる。

卵　……

ごく一般的な、食用の鶏卵である。
それは無慈悲に地面に叩きつけられ、割れ、中身が吐き出される。
やがて、

陽毬　『高く、硬い壁と、そこにぶつかって割れる卵があれば、私は常に卵の側に立つ』
陽毬　と、いうのは、某作家がエルサレムでした随分と有名になったスピーチの一節で、その後にはこのような言葉が続く。『たとえ、どれほど壁が正しくて、どれほど卵が間違っていたとしても、私は卵の側に立つ』
陽毬　感動的な言葉だと思う。素晴らしい言葉だとも思う。でも私としてはこうも思う。いくらなんでも卵を馬鹿にしすぎなんじゃないだろうかって。卵だって、いつまでも壁にぶつけられて砕けるつもりでいるわけじゃない。何度砕けようと、無数の同胞の亡骸の果てに、やがて硬い壁を貫き、打ち砕く。卵にだってそれくらいの自負はあるのかもしれない。少なくとも、砕ける寸前はこう思っているんじゃないだろうか。「私は負けない」

飛び降りる。地面の底へ向かって。

陽毬　地上からおよそ百メートルの高さから、私は今落下をしている

地上まで残り、百メートル

灯里　飛び降りる前にきちんと計算をした
父　百メートルの高さから自由落下した場合地面につくまでの時間はおおよそ四・五秒
母　ただし空気抵抗は考えないものとする

睦実　だって計算が難しいから
泉水　でも空気抵抗を入れたってきっと
康介　五秒には満たないだろう
母　私の残り寿命は約五秒
睦実　泣いても笑っても約五秒
父　この物語はその五秒間に私が見た走馬燈の話
母　あるいは走馬燈のような話
陽毬　体制を逆さまに
灯里　時間軸を逆さまに
康介　とりあえず始め
五人　始まりの始まりまで時計の針を逆さに戻して二〇年前
灯里　一九九九年七月三一日
陽毬　私は生まれた
男性　それは奇しくもノストラダムスの予言の
女性　空から恐怖の大王が降ってくるとされた日
五人　世界は滅びず特に大きなイベントも無かった年
泉水　映画館では、
睦実　マトリックスや、
康介　ファイトクラブや、
泉水　グリーンマイルが上映された年
父　私は数学教師のお父さんと、
母　国語教師のお母さんの元から生まれた
灯里　でもねえ、陽毬。いくら最初からと言っても生まれたときからやったんじゃあ流石に長すぎない？
陽毬　お姉ちゃん！
灯里　二〇年の人生を二〇年かけて走馬燈しても意味ないじゃない。二〇年の人生の二〇年かけた走馬燈の二〇年目であなたはまた百メートルの高さから飛び降りて二〇年分の走馬燈を見る。それをぐるぐると繰り返したらそりゃあ、あなたは永遠に生きられるかも知れないけれど、観てる観客は退屈してしまうわ。だって二時間の映画よりも二分の動画を、二分の動画よりも二秒でできるトリップが持て囃される時代なんだから
陽毬　でも観客なんて誰もいないわお姉ちゃん
灯里　私が観てる。退屈な繰り返しなんてごめんよ陽毬。もっと短くして
陽毬　じゃあもう少し最近の出来事から
灯里　……
陽毬　一か月前、お姉ちゃんが死んだ

女性　いつも私の代わりに怒ってくれたお姉ちゃんは二五歳の誕生日に
男性　やっぱり百メートルの高さから飛び降りて死んだ
睦実　時速約一五〇キロメートルの速度でコンクリートの地面に叩きつけられたお姉ちゃんの死体を私は見ていない
泉水　損傷が激し過ぎたから
康介　通常とは逆さまに
母　お姉ちゃんは葬儀の前に火葬された
五人　お姉ちゃんを殺した硬いコンクリートの地面には赤い血と肉片が散らばって
灯里　それは一時間後には綺麗に掃除されたけれど
父　罐に入り込んでしまったものまでは取りきることができず
睦実　よく見れば今もなお赤黒いものが罐に沿って広がっている
母　そもそもその罐はお姉ちゃんがつけたものだ
陽毬　お姉ちゃんは壁を砕くことはできなかったけれど、それでも確かに罐は入れた

舞台中央には、冒頭に落ちてきた卵の残骸が今も広がっている。
アメーバのように広がるどろっとした卵黄。粉々に散った白い殻。
あなたにはだんだんそれが、人間の残骸に見えてくるかも知れない。
唐突に、

父　なぁ陽毬。俺はね、灯里の死体を見たよ
母　あなたやめて
父　俺だってな。陽毬や母さんに灯里を見せてやりたかった。勿論、見せてやりたかったよ
母　あなたやめて
父　正直なこと言うと最初はそれが灯里だって分からなかった。警察だって分からないみたいだった。結局歯医者から歯形を取り寄せなければいけなかった
母　あなたやめて
父　最後のお別れもさせてやれずごめんな
母　あなたやめて
父　なぁ陽毬ごめんな
灯里　その後、お父さんは「ごめんな」を、お母さんは「あなたやめて」を壊れたレコーダーのように何度も繰り返した
陽毬　許せない
睦実　勿論私はそう思っている
母　お姉ちゃんを自殺に追い込んだ何かを私は許せない
父　生まれて初めて感じた「許せない」という感情は、

女性　海を汚す重油のように、
男性　草原を呑み込む溶岩のように、
五人　あるいは図書館を焼く赤い炎のように私に広がっていく
陽毬　小さな頃何度も見せられた恐ろしい映像
泉水　同じ世代の人であれば誰でもピンとくるような、
睦実　繰り返し
康介　繰り返し見せられた破壊の映像
灯里　つまり、
女性　聳え立つ高層ビルに突き刺さり爆発する飛行機
男性　あるいは家を車を何もかもを飲み込んで進む灰色の津波
女性　でも一番は大きな太陽
男性　八月にこの国に落とされきのこ雲を広げた大きな太陽
陽毬　太陽の毬と書いて陽毬と名付けられた私は、
五人　確かに今一つの太陽になって地面に降り注ごうとしている
灯里　どこへ向かって？
陽毬　勿論、一か月前、お姉ちゃんがつけた赤黒い罅を目印に
陽毬　私は今、とても怒っている。とても、とても、怒っている

99, 98, 97, 96, 95

陽毬　五歳の頃、お母さんは私に星座の本を買ってくれた。可愛らしいイラストが描いてあるような子供用のものを。国語教師のお母さんと、数学教師のお父さんの共通の趣味が天体観測だった。春の夜。一緒に星を見上げながら、お母さんは星座の話をしてくれた
母　あれが獅子座。あなたの星座よ
陽毬　ししざ？
母　占星術と言ってね。昔の人は、生まれたときにちょうどお天道様の下にあった星座の加護を受けて人は生まれてくると思ってたの。陽毬の場合は獅子座。獅子座の人は、とても行動力があって勇敢な人だと言われているわ
陽毬　お母さんは？
母　お母さんは山羊座。お父さんは双子座。そしてお姉ちゃんは蟹座。蟹座の人は、とても正義感が強い人が多いの。お姉ちゃんらしいでしょ？
陽毬　おもしろーい
母　そう？
陽毬　うん
母　じゃあ陽毬にも、星占いを教えてあげようか

陽毬　五歳の頃から私の趣味は星占いで、一五歳からは星占いのブログも始めた。毎週水曜の夜に、来週の各星座の運勢をランキング形式にして発表する。勿論、実際に星の動きは見るけれどほとんどがデマカセだ。きっと私以外の誰も見ていないブログを私は信じてはいないけれど、それでも自分が書いた獅子座の運勢に従って行動をすることもある

母　おめでとうございます。今週の第一位は山羊座のあなた。今までの努力が報われます。ラッキーアイテムは絵本

父　今週の第四位は双子座のあなた。苦手だったあの人と仲直りできるかも。ただし言葉使いには気を付けて。ラッキーアイテムは、三角定規

灯里　残念。今週の最下位は蟹座のあなた。思わぬところに落とし穴。決断は早くするのが良いでしょう。ラッキーアイテムは鳥の卵

陽毬　あれでもおかしいなぁ。せっかく、一月前まで時計の針を進めたのに、また巻き戻っている。今は五歳？　それとも一五歳？

灯里　しかたないよ。この時計は逆さまではなくて、サカシマなんだから

陽毬　サカシマ？

灯里　道理に合わないこと。道理に背くこと。それがサカシマの意味。この時計はあなたの都合で、進むし戻るし伸びるし縮む

父　超高速の世界では、あるいは超重力の世界では時間はゆっくりに引き伸ばされる。逆の視点から見れば時間は早く短く縮まる

康介　縦の縞模様を描けと言われたら君はどうやって描く？

陽毬　え？

康介　普通は上から下に描く。下から上に、逆さには描かない。だからサカシマ。道理に合わないこと。道理に背くこと。あえて、道理から外れること

陽毬　あなたまだ登場していないじゃない

灯里　仕方ないよ。この走馬燈は順番も繋がりもサカシマなんだから

陽毬　それもそっか

灯里　気になるなら、飛ばせばいい。あなたが彼に出会うところまで

陽毬　……

灯里　ねぇ陽毬。あなたはどこで出会ったの？　人見康介に

陽毬　……お姉ちゃんがつけた罅の上。あいつはその上で、お姉ちゃんが大嫌いだった煙草を吸っていて……あろうことかお姉ちゃんだったシミで煙草の火を押し消した

康介　クイズ

気が付けば街中。灯里が死んだアスファルトの上。

煙草を吸っている康介がいる。

陽毬　え？
康介　金魚とレーザーガンが似ているのはなぜか
陽毬　は？
康介　答えはどちらも口笛を吹かない
陽毬　はぁ？
康介　君、ＳＦはあまり読まない？
陽毬　はぁ
康介　じゃあ第二問。これ分からなかったらもう帰るから
陽毬　え
康介　カラスと書き物机が似ているのはなぜか
陽毬　……それは、不思議の国のアリスの帽子屋がしてくるクイズです。答えは無し。意味なんて無いんです。そのクイズ
康介　……

康介はひどく気味の悪い笑い声をあげる。
そして、吸っていた煙草の火を、シミに押し当て消す。

康介　意味の分からないものは嫌い？
陽毬　え
康介　僕はね、意味の分からないものは好きだよ、面白いから。逆に意味の分かるものはつまらないから嫌いだよ。君はどっちが好き？　まぁ、どっちでもいいけど
陽毬　……そんな話をしに来たわけじゃないんですけど
康介　ん？
陽毬　教えてくれませんか。姉が最後に言った言葉
康介　んー
陽毬　お願いします。どうしても知りたいんです。姉はどうして自殺なんかしたのか
康介　じゃあパンツ頂戴
陽毬　は？
康介　聞こえなかった。パンツ頂戴。今ここで、脱いで、ほら、今履いてるパンツさ、ほら、それとも何？　今履いてないのパンツ。あぁ、それはそれで面白いけど。で、ほら、さ、くれるの？　くれないの？
陽毬　……

しばしの間。急に、

康介　――ってさ、僕が言ったら、まぁ面白いよね。突然ここで脱いでパンツくれても

さ。あるいは怒って僕に殴りかかったりしてもさ。一番つまらないのは、踵を返して帰るやつかな。まぁでも悩んでくれたらそれだけで面白いよね。僕はどっちでもいいけど。あ、怒ってるね。いいね、怒っている奴は面白いから好きだよ。怒らない奴はつまらないから嫌いだよ。お姉さんもよく怒る人だったんだって？　本人から聞いたよ

陽毬　……姉とはどんな話をしたんですか？

康介　大した話はしていないよ。あ、でも君の話は聞いたよ。妹の陽毬ちゃん。泣き虫の陽毬ちゃん

陽毬　……

康介　お姉さんとは仲良かったんだってね。生まれてから二〇年ずっとね。でもね僕から言わせたら大切なのは生まれてからの二〇年じゃなくて死ぬ前の二分だね。結局死ぬ直前が、一番そいつがそいつであるときなんだよね。だから、僕は、君より、お姉さんのことをよく分かっているってこと。なんてね

康介は再び、とても気味の悪い笑い声をあげる。

康介　生きる時間が長くなるほど、一年を感じる時間は短くなるなんて言うけど、自殺の場合はどうだろうね。お姉さん二五歳だっけ。普通ならあと五〇年くらいは生きたわけだ。このビルからさ、飛び降りて死ぬまでの五秒くらい？　そのたった五秒で五〇年の人生を使い切って。どれくらいの長さに感じるんだろうね

陽毬　……

康介　あそこ。ほらちゃんと見て。あそこに、マンションがあるだろ。あの最上階が僕の部屋でさ、どうやら近くで飛び降りるらしいと知ったときは楽しかったな。たった五秒だからね。瞬きするのも勿体ない。君のお姉さんと通話しながらね、今か今かとそのときを待ったよ。綺麗だったな。うん、綺麗だったよ。それこそ、流れ星みたいで

陽毬　……

康介　見れるもんならもう一度見たいね

陽毬　人見康介の第一印象。ひどく不快な男。ひどく気持ち悪い男。ひどく苛立たしい男

灯里　生まれて初めて殺してやりたいと思えた男

94, 93, 92, 91, 90

陽毬　じゅーじゅーと音がしているのは、名前も知らないユーチューバーが、巨大ハンバーグを焼く音で、お姉ちゃんが死んで以来不眠症になった私は眠るときには適当な動画を流しっぱなしにしている

陽毬　今の私は静寂が何より怖い。目を閉じて静寂に耳を澄ませれば体の中から怨嗟の音が聞こえる。許さないという声が聞こえる。気を紛らわせるためにできるだけどうでもいい音を流す

雑音が陽毬の周りを取り巻くように同時に聞こえ始める。

雑音　本日は巨大ハンバーグにね、挑戦ってことでね、狙っていきたいと思いますね。ギネス記録ね。いやー、テンション上がりまくりですよね

雑音　それじゃあマシュマロ返ししています。一人目は「それロンさん」なとりんは、カレーにはまってると聞きましたが、カレーはライス派ですか？　ナン派ですか？

雑音　以前、ちょっとしたルームツアーしましたけどそのときはまだ入居したばかりでね。家がすっからかんだったので本日はもう少しきちんと紹介していきたいと思います。まずこのリビング

雑音　え、でもやってる人いるじゃないですか。街中とかで。それ見てさ、やってみたいとかは思わない？　あー、思わないか。そういうわけで……

雑音　じゃあ今日は人生で僕が、一番むかついた女の話をしたいと思います。いやすみません。悪口とかね。本当は良くないと思うんですけど、

陽毬　どうでもいい雑音を子守唄に、なんとか私は、眠りにつく

灯里　繰り返し、繰り返し、お姉ちゃんの夢を見る

陽毬　小さな頃、お姉ちゃんと流れ星を見た。二〇〇九年一一月、お姉ちゃんは一五歳、私は一〇歳。私たちは朝四時に自宅マンションの屋上に上った。お目当ては、獅子座流星群。私たちは地上百メートルの高さに仲良く寝転んで、二人きりで降ってくる幾千の流れ星を見た

陽毬　お姉ちゃん！

灯里　なぁに、陽毬

陽毬　これだけ流れ星がいっぱいあったら、いっぱいお願い事できちゃうね

灯里　駄目だよ陽毬願い事は一つだけにしないと

陽毬　そうなの？

灯里　そうなの

陽毬　じゃあ、お父さんとお母さんとお姉ちゃんといつまでも幸せに暮らせますように

陽毬は流れ星に向かって祈っている。唐突に、

陽毬　お姉ちゃん！

灯里　なぁに、陽毬

陽毬　お姉ちゃんは何を願ったの
灯里　内緒
陽毬　えー
灯里　内緒
陽毬　えー
灯里　絶対に教えてあげないから
陽毬　本当に教えてくれなかった。教えてくれないまま一〇年後、地上百メートルから流れ星のように飛び降りた。ビルの上には綺麗に揃えられた靴、スマートフォンとそのメモ帳に書かれた簡素な遺書。具体的なことは何も書かれていなかった
陽毬　着信記録を見るとギリギリまでどこかに電話をしていた形跡があった。私の番号じゃない。お父さんの番号でもお母さんの番号でもない知らない番号。葬儀が終わった後、私はどうしても気になってその番号に電話をかけた
睦実　はい。日本メンタルヘルスライン。こころの１１９番相談局です。こちらでは、二二時から翌朝六時まで電話相談を行なっております。お悩みがありますか？　話したいこと、話せそうなことからお話をしてください。どんな些細なことでも構いませんよ
陽毬　……あの、すみません。実は私が相談があるわけじゃないんです。姉が最近自殺をして、最後にここに電話をしていたみたいで
睦実　じゃああなたが日野陽毬さん
陽毬　……え

電話越し。女の笑い声が聞こえる。

睦実　お電話お待ちしておりました。きっとかかってくると思っておりました。今、先生とお繋ぎします
陽毬　そうして私は人見康介に出会った

気が付けば路地裏。罅の上。康介は煙草を吸っている。

康介　かけてくる電話の半分は冷やかしでさ、
陽毬　……
康介　セクハラまがいの電話してくる奴もいるし、どんなことを話すのかって、好奇心でかけてくる奴もいる。残りの半分も大半は本気で死ぬ気なんて無くてね。とにかくしんどいとか、辛いとか、死にたいとか、誰かに聞いてほしいだけのやつでね。本気で死の直前、ギリギリの端っこに立って電話してくるのは百に一つ。その百に一つだけ僕が代わって話を聞くようにしている。君のお姉さんはその百に一つ

陽毬　……
康介　いくつ？
陽毬　え
康介　年齢
陽毬　……一九です。今月末で二〇です
康介　へぇ……じゃあ、一九九九年の七月生まれ
陽毬　えーと、はい
康介　ノストラダムスって知ってる？
陽毬　え？　……はい、まぁ
康介　今じゃあもう笑い話だけどさ、あのときは結構本気で騒いでる人もいたんだよ。一九九九年の七月に本当に世界が終わるんじゃないかって。僕その頃小学生でさ。笑えたよね、なんにも起きねーんだもん。隕石が落ちるとかさ、核戦争が起きるとかさ。なんにも起きねーんだもん。笑えたよね

間。康介は煙草を吸っている。唐突に、

康介　一か月でいいよ
陽毬　え、
康介　一か月、僕の仕事手伝って。そしたら教えてあげる。お姉さんがなぜ死んだのか
陽毬　……
康介　人手不足でね、ちょうど困ってて、そう、一人飛んじゃったんだよね、こっちもさ、最近ちょうど
陽毬　電話相談……ですか？
康介　そっちはまぁ副業。君にやってもらうのはそれでいいけど
陽毬　副業？
康介　本業はゴーストライター
陽毬　……
康介　死ぬ寸前までいっている人間の話ってさ、面白いんだよ、だいたいね、幸せの形はみんな似ているけど、不幸の形は千差万別って話でさ。あぁ、トルストイは読まない？　まぁ別にいいけど。でも、面白いの抱えたままだいたい死んじゃうから、還元してあげてるの僕が、社会に、ね
陽毬　……
康介　お姉さんの話もね、まぁ面白かったよ

康介は気味の悪い笑い声を上げる。

康介　一か月、僕の仕事手伝ってくれたら教えてあげる。嫌なら、教えてあげない。で、どうする？　決断が速い人間は好きだよ、遅い人間は嫌いだよ。悩んでもさ、面白さは逃げちゃうから。どうする？　僕はどっちでもいいけど

89, 88, 87, 86

陽毬　六年前。二〇一三年三月、高校卒業を機に、お姉ちゃんは一人暮らしを始めた。お姉ちゃんが住んだ場所まで、電車でも車でも一時間もかからなかったけれど、それでも随分と遠くにお姉ちゃんが行ってしまったように感じた。お姉ちゃんのいなくなった我が家は、なんだか妙に広く感じた。なんだか妙に静かに感じた。お父さんは、黙ってただテレビをつけた

灯里　……東日本大震災から本日でちょうど二年です。警察庁によりますと、今月一日時点で東日本大震災による死者数は、一五八八〇人。行方不明者二六九四人。政府は今日午後、都内で追悼式典を開き……

父　時が経つのは早いね

母　そうですね

父　これから毎年この時期になるとこのニュースがやるのかね

母　そうですね

父　こんなに大きな災害もいつかは忘れられる日が来るのかね

母　どうでしょうね

父　陽毬は、水死体は見たことあるかな

母　ちょっとあなた、やめてくださいよ

父　入水自殺なんてのが流行った時期があるけど、あれはやめといた方がいいね。僕が知る限り、一番汚いのが水死体だよ。あげられる時期にもよるけどね。人間だって、水に浸かっていればふやけて腐る

母　あなたやめてください

父　自殺するなら首吊りがいい。あれだって、綺麗なわけじゃないがましな方さ。薬物自殺は吐瀉物まみれになる。焼死体は原型が残らない、轢死体はバラバラ。そして一等悪いのが墜落死体だ。下半身からいければ綺麗な場合もあるらしいけどね。人間の体で一番重いのは頭部だ。普通は頭から落ちる。頭蓋骨が割れることもある。割れた頭から脳みそがこぼれる。眼球が飛び出る。意外と頑丈なのは歯でね。どんな酷い死体も歯形は残る

母　あなたやめて

父　なぁ陽毬。父さんはね、灯里の歯形を取り寄せたよ。正直なこと言うと最初はそれが灯里だって分からなかったから。警察だって分からないみたいだった。照合の間、どうにか間違いであってほしいと祈った。必ず間違いであってくれと祈った。

母　あの祈りはどこにいったんだろうなぁ
母　あなたやめて
父　なぁ陽毬、お前は許せるか？
母　あなたやめて
父　俺は許せない。絶対に許せない。どれだけ時間が経っても許せない。どんな償いがあっても許せない
母　あなたやめてください

母が泣き出す。陽毬はそれを見ている。

陽毬　お姉ちゃんが死んで以来、お母さんはずっと泣いていて、お父さんはずっと怒っている。それはまるで、泣き虫だった私と、私のためによく怒ってくれたお姉ちゃんのようで

蝉の鳴き声。あなたに眩暈を起こさせるような音量で。
陽毬が泣いている。大きな声で泣いている。
そのそばには、灯里がいる。

灯里　どうして泣いているの陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　だってじゃあわからないよ陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　どうして怒らないで泣いてばかりいるの陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　怒らないってことは相手を許したのと同じなのよ陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　今あなたがしているのはただの泣き寝入りよ陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　怒るの陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　許せないなら怒るの陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　怒るの陽毬、怒らなくちゃいけないの陽毬、たとえ相手が謝ろうと反省しようと怒らなくちゃいけないの
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　だって悪逆は許せないでしょう陽毬、理不尽は許せないでしょう陽毬、非合理は許

せないでしょう陽毬、無秩序は許せないでしょう陽毬

陽毬　だってお姉ちゃんだって

灯里　もしもその悪逆が許せないのなら、もしもその理不尽が許せないのなら、もしもその非合理が許せないのなら、もしもその無秩序が許せないのなら

父　許せない。俺は許せない。絶対に許せない。どれだけ時間が経っても許せない。どんな償いがあっても許せない

母　あなたやめてください

母が泣き出す。陽毬はそれを見ている。

陽毬　お姉ちゃんが死んで以来、お母さんはずっと泣いていて、お父さんはずっと怒っている。私は、あぁ、お姉ちゃんを壊した何かは、私のお父さんも、お母さんもやっぱり完全に壊してしまったのだなぁとようやく分かってきた

母　あなたやめてくださいあなたやめてくださいあなたやめてください あなたやめてください あなたやめてください あなたやめてください あなたやめてください あなたやめてください あなたやめてください あなたやめてください あなたやめてください

陽毬　だったらせめて見つけなくちゃな犯人を

父　俺は灯里の死が許せない。灯里をあんな風にした何かが許せない、お前も許せないよな。なぁ陽毬

陽毬　見つけても、何もかも手遅れだとしても

灯里　もしもその悪逆が許せないのなら、もしもその理不尽が許せないのなら、もしもその非合理が許せないのなら、もしもその無秩序が許せないのなら

父　許せない。お前も許せないよな。なぁ陽毬

陽毬　その夜、私はお姉ちゃんのスマホの最後の着信履歴に電話をした。犯人を見つけなくちゃな。許しちゃいけない犯人を見つけなくちゃな

灯里　ざんねーん。今週の最下位は獅子座のあなた。一つのことに囚われて周りが見えていないかもー。ラッキーアイテムは、ココア

泉水　二二時から翌朝六時が営業時間です

陽毬　え？

気が付くとそこは、康介のオフィス。陽毬の目の前には、線の細い、垂れ目の男。年齢は分からない。しかし二〇は超えているだろう。

泉水　それ以外の時間帯は、自動で録音メッセージに繋がるように設定してあります

陽毬　はぁ……

泉水　電話応対の詳しい内容は睦実から説明があるので

陽毬　睦実？
泉水　まだ会ってませんか？　じきにここに来ますので
陽毬　はぁ、

奇妙な間。泉水はニコニコと笑いながら陽毬の目をじぃっと見つめている。急に、

泉水　あ。何か飲みますか、コーヒーか紅茶。あと、ココアならありますけど
陽毬　えーと、
泉水　ココアにしましょうか
陽毬　え？
泉水　ココアは健康にいいので
陽毬　えっと、
泉水　どうせなら長生きしたくないですか？
陽毬　えっと……じゃあココアで
泉水　はい

泉水がはけようとする。唐突に立ち止まる。またとことこと戻ってくる。

泉水　泉水です
陽毬　はい？
泉水　二兎泉水と言います。主に先生の身の回りのお世話をしています。これからよろしくお願いします、日野陽毬さん
陽毬　あ、はい、よろしくお願いします

泉水がはけようとする。唐突に立ち止まる。またとことこと戻ってくる。

泉水　一九九九年七月三一日生まれの日野陽毬さん
陽毬　え？　えっと、はい

泉水はニコニコしている。

陽毬　え？　なんですか？
泉水　なんでもないです。じゃあココアお持ちしますね

泉水がはける。一人取り残された陽毬は、部屋の様子をきょろきょろと見ている。ふと窓の外に何かを見つける。近付いて眺め始める。そこに睦実が現れる。陽毬の

後ろからこっそりと近付く。

睦実　わ！

陽毬　うわ！

驚いて振り返る。睦実はにやにやと笑っている。

睦実　今じゃすっかり有名になっちゃって、「飛び降り塔」なんて呼ばれてるよ。お姉さんの死んだビル。ウケない？

陽毬　……

睦実　え、ウケない？

陽毬　いや、その……

睦実　（強引に握手して）猫宮睦実です。よろしくね、日野陽毬さん

陽毬　あ、はい。よろしくお願いします

睦実　でさ、陽毬ちゃんって呼んでいい？

陽毬　えっと、いいですけど

睦実　なんで敬語なの？

陽毬　え？　いや、その……年上かなと思って

睦実　へぇ、いくつに見える？

日野　さぁ……でも、二二とか、二三とか

睦実　はい、これ

会話を打ち切るように、睦実は陽毬に何かを差し出す。それは、どうやらヘッドセットのようだ。

睦実　長電話が大半だから受話器じゃなくてヘッドセットでやってるの。ダイヤルが鳴ったらこのボタンを押して。電話に出られるから

陽毬　切るときもこのボタンですか？

睦実　そうだけど、いたずら電話とか以外では使わないでね

陽毬　え？

睦実　ルールその一。決して自分からは切らないこと

ＣＡＬＬ音

睦実　はい。日本メンタルヘルスライン。こころの１１９番相談局です

陽毬　私がここで働き始めてまず驚いたことは、かかってくる電話量の多さだ。世界には

死にたがりが溢れている
父　人間関係を苦に死にたがっている人がいる
母　経済的な困窮で死にたがっている人がいる
康介　性的な問題で死にたがっている人がいる
二人　こちらでは、二二時から翌朝六時まで電話相談を行なっております
睦実　お悩みがありますか？　話したいこと、話せそうなことからお話をしてください
陽毬　どんな些細なことでも構いませんよ
泉水　家族とうまくいかず死にたがっている人がいる
灯里　職場に馴染めず死にたがっている人がいる
父　学校でいじめられて死にたがっている人がいる
睦実　ルールその二。決して狼狽しないこと
陽毬　挑発的なことは言わないこと
康介　介護に疲れて死にたがっている人がいる
母　試験に落ちて死にたがっている人がいる
泉水　恋人に振られ死にたがっている人がいる
睦実　ルールその三。何も問題は無いとは言わないこと
陽毬　些細な問題だとは言わないこと
睦実　誤った保証を与えないこと
父　犯罪の被害に遭い死にたがっている人がいる
灯里　犯罪に手を染めてしまい死にたがっている人がいる
康介　家族が犯罪者になってしまい死にたがっている人がいる
睦実　ルールその四。相手を無視しないこと
陽毬　状況を無視しないこと
睦実　電話相手を孤独にしないこと
泉水　将来が不安で死にたがっている人がいる
母　過去に囚われ死にたがっている人がいる
父　ただ漠然と理由も無く死にたがっている人がいる
睦実　ルールその五。本気で死にたがっている人と分かったら、
陽毬　先生に繋げること
灯里　今、私はとても高い、高い、ところにいます
陽毬　……え？

電話の向こうから女の声が聞こえる。陽毬にはどことなく、姉に似た声に聞こえるかもしれない。

灯里　ビルの屋上です。目の前には空が広がっています。フェンスはさっき乗り越えまし

た。コンクリートの床に裸足で立っています。なんだか足の裏が、ひやっとした感じです。足の指先は、地面をはみ出して、もう空に伸びています

陽毬　……

灯里　片足を、上げてみました。体がぐらぐらと、ぐらぐらと揺れて、

陽毬　少々お待ちください。ただいま、先生とお繋ぎします

突然、

「がたん」と大きな音があなたの耳に響く。

やがて「ぶつり」と、

電話が切れる音がする。

「ツー、ツー、」と、音がする中、陽毬は呆然としている。

そこに泉水がやってくる。

泉水　今のいたずらですよ

陽毬　え？

泉水　よくあるんです、あぁいうの。先生に回す前で良かったですね

陽毬　……いたずら？

泉水　本当に死んでいたら誰が電話を切ったんですか

陽毬　あ、

陽毬は大きく、深いため息をつく。

陽毬　あー、良かった

泉水　良かったですか？

陽毬　え？　だってその……誰も死んでいないのに越したことはないですし

泉水　そうですか？

陽毬　え？

泉水はニコニコと笑っている。

唐突に、

泉水　そろそろ朝日が昇りますね

陽毬　え、あ、ほんとだ

泉水　だいたい毎日こうです。朝の三時くらいまでは電話は鳴りっぱなしで、五時近くになると落ち着いてきます

陽毬　へー

泉水　誰も死なないに越したことはないですかね
陽毬　え？　それはそうじゃないですか？
泉水　じゃあ例えば相手が将来極悪人になる人でも
陽毬　いやそれは分からないですけど
泉水　先生は死にたい人には躊躇いなく死んでしまえと言います
陽毬　……
泉水　嘘です
陽毬　え
泉水　死んでしまえと言われると逆に死ぬ気が無くなる人間もいます。その人にとって一番死にやすい言葉を探して伝えます。人によっては、「死なないで」という言葉が、「諦めないで」という言葉が最後の一歩を踏み出すきっかけになることだってあります
陽毬　……
泉水　例えばあなたが止めたせいで自殺をやめたのが先生だったらどうでしょうか。あなたが止めたせいで生き延びた先生はこんな仕事を始めて、そのせいで何人もの人が自殺するかも知れません。あなたのお姉さんだって先生に電話をしていなければ死ななかったかも知れないですし
陽毬　……
泉水　あるいはあなたが自殺を止めた人は、根本的に生きることに向いていない人かも知れません。そのときは自殺をやめてもその先の長い人生にはただただ苦痛しか無いかも知れません。その人はあなたを恨むかも知れません。あなたがあのとき止めなければと恨むかも知れません。それでも死なないに越したことはないですかね
陽毬　……

間。
泉水はニコニコと笑って、窓から朝焼けを眺めている。

泉水　よくあんな高さから飛び降りましたよね
陽毬　姉のことですか？
泉水　いろんな人から電話がかかってきます。僕が出ることもあります。結構失敗するんです、自殺って。あんな百パーセント死ねる高さから落ちる人なんてまずいないですよ。百メートル。その半分でも確実に死ねます。三分の一の高さでも生きていたら奇跡です。百分の一。一メートルの高さだって打ちどころが悪ければ死ねます
陽毬　……
泉水　一〇分の一。一〇メートルは確実に死ぬには不十分な高さですが、それでもその高さから落ちようとすれば身は竦みます。死にたいと心は思っていても、生理的に体

が止めます。よく百メートルの高さから。そう思いますよ
陽毬　姉は……お姉ちゃんは勇敢な人だったから
灯里　姉のことを過去形で話していることに私は気付く
陽毬　自慢のお姉ちゃんだったんです
灯里　だった
陽毬　しっかり者でした
灯里　でした
陽毬　人望があって、中学校では生徒会長もやっていました
灯里　ました
泉水　そうですか
陽毬　どうしてお姉ちゃんは自殺なんかしたんだろう
灯里　私はそれが許せないでいる。自殺した姉のことではない。姉を自殺に追いやった何かが許せないでいる
陽毬　犯人を捜さなくちゃな。お姉ちゃんを自殺に追いやった犯人を
灯里　犯人を捜すため、私は今日も絶え間なく電話をかけてくる死にたがりの話を聞いている

85, 84, 83, 82, 81, 80, 79, 78, 77

陽毬　七日間、つまり一週間があっという間に経過して、水曜日になる。水曜日とはつまり、星座占いのブログの更新を意味する
灯里　ざんねーん。今週の最下位は獅子座のあなた。腸がひっくり返ってしまうような衝撃的な事件が起こるかも。でも怒り過ぎないで。復讐は何も生まないぞ！　ラッキーアイテムはー、カーネーション
陽毬　学校に行くのはやめた。バイトもずっと無断欠勤をしている。夜は死にたがりの話を聞いて、朝に家に帰って眠る。その繰り返し。日にちの感覚は日々曖昧になっていく。お父さんはずっと怒っている。お母さんはずっと泣いている。私は自分の星座占いでなんとか正気を保っている
灯里　あるいはとっくの昔に正気を失っている私はブログを更新することで自分は正気なんだと自分に言い聞かせている
陽毬　午後二二時から仕事を始めるともうトイレに行く暇も無い
灯里　とにかくひっきりなしに電話は鳴る
陽毬　はい。日本メンタルヘルスライン。こころの１１９番相談局です
灯里　大半はいたずら電話。長く時間がかかるものもある。二時間でも三時間でも喋り続ける人は大勢いる
陽毬　はい。日本メンタルヘルスライン。こころの１１９番相談局です

灯里　逆に一、二分で苛立ち気に受話器を置かれることもある
陽毬　はい。日本メンタルヘルスライン。こころの１１９番相談局です
灯里　夏の夜空に太陽が昇り始める頃ようやく電話は鳴らなくなる。その頃星はほとんど見えなくなっている
睦実　陽毬ちゃん凄いよね
陽毬　え？
睦実　一週間もった人久し振り。だいたい二、三日で来なくなっちゃうんだよね
陽毬　猫宮さんは、
睦実　睦実でいいって
陽毬　……睦実さんは、
睦実　……
陽毬　睦実？
睦実　むっちゃん
陽毬　え
睦実　やっぱりむっちゃんって呼んで
陽毬　え、いや……
睦実　……
陽毬　いやその……
睦実　……
陽毬　むっちゃんはさ
睦実　なになに？
陽毬　なんでこの仕事してるの？
睦実　時給がいいから
陽毬　時給……
睦実　時給一二〇〇円なんてなかなか無いよね
陽毬　一二〇〇円……
睦実　あと家付きだし
陽毬　え、ここに住んでるの？
睦実　そだよ。知らなかった？
陽毬　えー
睦実　もともと家出して住むところに困ってて
陽毬　え？
睦実　そんでもうこれはバニラするしかないかと
陽毬　バニラ
睦実　バーニラ、バニラ、バーニラ高収入！
陽毬　あ、あぁ

睦実　ひーちゃんもやって
陽毬　ひーちゃん？
睦実　バーニラ、バニラ、バーニラ高収入！
陽毬　……
睦実　やって
陽毬　バーニラ、バニ
睦実　でも一八歳未満は無理だって言われて
陽毬　は？
睦実　え？
陽毬　え、何歳なの？
睦実　一五ちゃい
陽毬　え!?
睦実　お、今日一ででかい「え!?」いただきましたー
陽毬　え、一五歳？
睦実　一五歳。家出したときは一四歳
陽毬　中学生じゃん
睦実　うん、当時ね
陽毬　えー
睦実　それで遠い親戚の泉水君の家を訪ねたら、あれよあれよという間に仕事を手伝うことに
陽陽　あ、親戚だったんだ
睦実　一応ね。歳も離れてるし、そんなに親しかったわけじゃないけど
陽毬　それでよく家訪ねたね
睦実　だからびっくりしたよ。こんなやべー仕事してるし、明らかにやべー男と付き合ってるし
陽毬　あー
睦実　あ、付き合うってそういう意味ね
陽毬　あー
睦実　……
陽毬　え!?
睦実　お、今日一で大きい「え!?」更新いただきましたー
陽毬　え、そういう意味って……え!?
睦実　もーすごい長いらしいよ。小学校の頃からって言ってたから。ここで働き始めるまでまったく知らなかったけど、
陽毬　へー

しばらくの間。睦実はなんとなしに窓の外を眺める。唐突に、

睦実　あ、ひーちゃん見て見て！

陽毬　え、なに？

二人は窓から外の世界を見下ろす。

睦実　あれが朝の五時前から出社する社畜の鑑だよ

陽毬　……

睦実はポケットから煙草を取り出す。口に咥えライターを差し出す。

睦実　つけて

陽毬　え？

睦実　つけて

陽毬　でも……

しばらくの間。

陽毬はライターを持って立ち竦（すく）んでいる。

やがて睦実はライターを奪い、自ら煙草に火を点ける。

睦実　社畜を見ながら吸う煙草は美味しいなぁー！

陽毬　美味しいですか？

睦実　美味しい。パチンコで勝って食べる焼肉くらい美味しい。でさ、敬語やめてって、私の方が年下なんだし

陽毬　……

睦実は窓の外を見ながら煙草を吸っている。

睦実　時給いいのもあるけど、私、この仕事向いてる気がするんだよね

陽毬　……そっか

睦実　でもひーちゃんは、向いてないと思う

陽毬　そっか

ＣＡＬＬ音

灯里　当然のことながら、その電話はいつもと同じ音で鳴り響いた
陽毬　はい。日本メンタルヘルスライン。こころの１１９番相談局です
灯里　だから私はいつもと同じトーンで電話に出た
陽毬　お悩みがありますか？　話したいこと、話せそうなことからお話をしてください。
　　どんな些細なことでも構いませんよ
灯里　しかし電話の先から聞こえたのは妙に耳馴染みのある声だった
母　すみません、その、こういうところにかけたのは初めてで、なんて話し始めたらいいか
灯里　だから私はその言葉を聞く前から電話の向こうにいるのが誰か当然分かっている
母　娘が自殺したんです。自殺してしまったんです。それ以来、どうしても、考えちゃいけない……考えちゃいけないことばかり心に浮かんでしまって
父　家族が自殺して死にたがっている人がいる
泉水　家族が自殺しそうで死にたがっている人がいる
陽毬　死にたがっている家族の話を聞いている私がいる

76, 75, 74, 73, 72, 71, 70̄

陽毬　一〇年前、七月三一日。私の一〇歳の誕生日。お母さんは私のためにケーキを焼いてくれた
母　（拍手しながら）誕生日おめでとう陽毬
父　（拍手しながら）誕生日おめでとう陽毬
灯里　（拍手しながら）誕生日おめでとう陽毬
陽毬　エヴァンゲリオンの最終話みたいになっているのは勘弁してほしい。一〇歳の記憶はもう曖昧になっていて、でも、一つだけとても覚えていることがある
陽毬　お母さん、お母さん
母　なぁに陽毬
陽毬　どうして誕生日はケーキが食べれるの？
母　それはね、誕生日がとっても素敵な記念日だからですよ。大好きな陽毬が生まれてくれた日だからですよ。お父さんもお姉ちゃんも、勿論お母さんも、陽毬が生まれてくれたことが嬉しいから祝うんですよ
陽毬　お母さん、お母さん
母　なぁに陽毬？
陽毬　じゃあ、私の誕生日とお姉ちゃんの誕生日は、どっちが嬉しいの？
母　それはね陽毬
陽毬　うん

母　お母さんには選べないわ。だって、灯里が生まれてくれたことも、陽毬が生まれてくれたことも本当に嬉しくて、私が生まれてから一番嬉しかったのはこの二つで、だからねどっちも一番で、どっちも一番に愛してるわ。ね、灯里、陽毬

灯里　ありがとうお母さん

陽毬　ありがとうお母さん

母　でも今日の主役はあなたよ、陽毬。さ、蝋燭の火を消して

陽毬　うん！

大きく息を吸って、陽毬は蝋燭の火を消す。

気付けば一〇年後。

母　本当は男の子と女の子の姉弟がよくて

陽毬　はい

母　私が一人っ子だったから、どうしても二人は子供が欲しかったんです。娘は、灯里は、予定日より三週間も早く生まれてきちゃって、未熟児で、生まれる前に死んじゃうかも知れないってお医者様には言われていて、だから無事に生まれてきたときは嬉しくて、嬉しくて、愛おしくて、可愛くて、小さすぎる灯里の掌を見たとき、あぁ男の子を生まなきゃって、この子を守ってくれる弟を生まなきゃなって思って

陽毬　はい

母　でもその後、なかなか子宝に恵まれなくて、五年目にやっと授かって、嬉しくって、でもこれは最後のチャンスかなって思ってて、だから女の子だって聞いたときは、少しだけ、少しだけ悲しくて、そんな風に思っちゃ駄目だし、こんなこと誰にも、主人にも言わなかったけど、そっかぁ、女の子かぁって思って

陽毬　はい

灯里　私はすぐに分かったのに

母　でもそんなこと思っちゃ駄目だって思ってて、ちゃんと平等に愛そうって。二人子供を生んだ母の責任は平等に愛すことだと思ってて、だから灯里の成長も、陽毬の成長も、あ、次女は陽毬っていうんですけど、とっても嬉しくって

陽毬　はい

灯里　どうしてお母さんは私の声に気付かないのだろう

母　でも灯里が死んでしまって、灯里の、生まれたばかりの灯里の小さな掌がどうしても忘れられないんです。あの子を守れなかったって、あの子を守りたかったのにって

陽毬　心中はお察しします。本当に辛かったんですね。でも少しずつでも前を向かないと、ねぇお母さん。まだもう一人の娘さんは生きているんですから。あなたが生んだお子さんはもう一人いるんですから

母　分かっています。分かっています。私はまだ恵まれている方です。でもどうしても思ってしまうんです。こんなこと考えちゃいけないんです。分かってます。でも、平等なんて。平等には。どうしても二人いたら……分かります。こんなこと考えちゃいけないんです。考えちゃいけないんです。

陽毬　お気持ちは大変分かりますよお母さん

母　私は罪深い人間です。考えちゃいけないんです。でもどれだけ頭から追い出そうとしても灯里の掌が。本当に小さくて。無事に生まれてきてくれて嬉しくって。ありがとうって。女の子かぁって。二人目は男の子が。この子を守れるような男の子がって

陽毬　お気持ちは大変分かりますよお母さん

母　私はとても嫌な人間です。駄目な母親です。だから泣いてばかりで。まだ主人も、もう一人の娘もいるのに

灯里　私はもう一人の娘

母　自分のことが醜くて惨めで仕方ないんです。楽になりたいんです。考えちゃいけないことを考えられないようにしたいんです

康介　面白い

次の日。

陽毬の目の前には康介がいる。

康介　録音聞いたよ。君のお母さん面白いね。面白い人は好きだよ。しかもギリギリのところにいる。ギリギリのところにいる人って面白いよね。面白い。あと一歩、ほんとくだらないきっかけがあればやるよ。君のお母さん。君の一家は本当に面白いなぁ

陽毬　次にお母さんからかかってきても、絶対にあなたには繋ぎませんから

康介　そんなことするわけないじゃんつまらない。娘と母で電話している方が面白いに決まってる。あ、そうだ。あんたがさ、お母さん飛ばしてよ。お姉ちゃんみたいに高いところからさ、飛ばしてよ。同じビルがいいな。また見物ができる。お姉ちゃんの最後はね本当に綺麗だったよ

陽毬　そんなことできるわけないじゃないですか！

康介　じゃあ見事、お母さんを飛ばしたら教えてあげる。お姉さんの自殺の真相。飛ばせられなかったら一生教えてあげない

陽毬　約束が違います！

康介　仕方ないよねこっちの方が面白くなっちゃったんだから。ってかさなんでお母さん庇うの？　死んだらせいせいしないの？　ねぇもう一人の娘の陽毬ちゃん

陽毬　……

陽毬は何も言わず踵を返し部屋から出ていこうとする。

康介　辞めるの？　それは困るなー、人手が足りない。僕まで電話に出ないといけない。お母さんから電話はまた来るだろうね。そしたらなんて言おうかな。なんて言おうかな。なぁ陽毬ちゃん

陽毬の足が止まる。

康介　ギリギリのところにいる人にね、あと一歩を踏み出す勇気を与えさせるプロだよ僕は。信頼してほしい。きっと君のお母さんもあと一歩を踏み出せる。でも僕にさせないでほしいな。それじゃあつまらない。それじゃあいつも通りだつまらない。ぜひ君にやってほしい。そっちの方が面白い

陽毬　あなたは私が会った中で一番の本当に最低な人です

康介　君は僕が会った中で四番目か五番目くらいに面白い人だよ。大丈夫、もう少し頑張れば一番狙える

陽毬　あなたのせいで今まで何人自殺したんですか

康介　僕が他人の名義で出した本の数とだいたい一緒だよ。そんなに多くないよ、そんなに少なくもないけれど。二桁は超えてる。三桁は超えてない

陽毬　……あなたはどうして

康介　ん？

陽毬　こんな酷いことしているんですか？

康介　面白いからだよ。酷いことって面白いだろ。不謹慎なことって面白いだろ。面白くない？　そう。僕は面白いけどな

陽毬　……

康介　事実は小説より奇なりって言うけどさ、あれ嘘だよね。実際は事実も小説も奇妙じゃないよね。つまらないよね。だからせめて小説のほう面白くしてあげないとねって、思うけどね、僕は。そうでなきゃつまらない。だから頑張ってるんだけどね。とんでもなく面白い小説書いて、とんでもなく面白い世界来ないかなって。なぁ陽毬ちゃん

陽毬　……

康介　君が生まれる一〇年前。一九八九年に僕は生まれた。この年何があったか知ってる？

陽毬　……いえ

康介　冷戦が終わった

陽毬　……

康介　それ以降はつまらないことばかりだよ。いつ世界が滅んでもおかしくなかったはずなのにさ。だからせめて事実よりよっぽど面白い本でも欲しくない？
陽毬　事実よりよっぽど面白い本
康介　それこそ読んだら死んじゃうような

69, 68, 67, 66, 65, 64, 63

陽毬　燦々（さんさん）と輝く太陽の下で、幼い私が泣いているのを私は見ている。私が私を見ているなんて変だから夢なんだと気付く。蝉の鳴き声が聞こえる。蝉に負けじと私は泣いている。私の目の前にはお姉ちゃんがいる

蝉の鳴き声。あなたに眩暈を起こさせるような音量で。
陽毬が泣いている。
大きな声で泣いている。
そのそばには、灯里がいる。

灯里　どうして泣いているの陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　だってじゃあ分からないよ陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　どうして怒らないで泣いてばかりいるの陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　怒らないってことは相手を許したのと同じなのよ陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　今あなたがしているのはただの泣き寝入りよ陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　怒るの陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　許せないなら怒るの陽毬
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　怒るの陽毬、怒らなくちゃいけないの陽毬、たとえ相手が謝ろうと反省しようと怒らなくちゃいけないの
陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　だって悪逆は許せないでしょう陽毬、理不尽は許せないでしょう陽毬、非合理は許せないでしょう陽毬、無秩序は許せないでしょう陽毬

陽毬　だってお姉ちゃんだって
灯里　だってなんなの？　陽毬
陽毬　だって、お姉ちゃんだって、私分かってるから
灯里　何が分かっているの？　陽毬
陽毬　だって悪いのは私だって分かっているから
灯里　駄目だよ陽毬願い事は一つだけにしないと

気が付けばそこは星の流れる夜である。

陽毬　そうなの？
灯里　そうなの
陽毬　じゃあ、お父さんとお母さんとお姉ちゃんといつまでも幸せに暮らせますように

陽毬は流れ星に向かって祈っている。唐突に、

陽毬　お姉ちゃん！
灯里　なぁに、陽毬
陽毬　お姉ちゃんは何を願ったの
灯里　内緒
陽毬　えー
灯里　内緒
陽毬　えー
灯里　絶対に教えてあげないから
陽毬　本当に教えてくれなかった。教えてくれないまま十年後、地上百メートルから流れ星のように飛び降りた

いっそう大きな、蝉の鳴き声で陽毬は目を覚ます。

灯里　目が覚めると夜の八時で
陽毬　日はとっくに沈んでいるのに蝉の声がうるさくて
灯里　庭に出るとお父さんが金属バットで素振りをしていて
陽毬　私は私がまだ夢の中にいるかどうか疑っている

家の庭では父が金属バットで素振りをしている。陽毬はそれを縁側から見ている。

父　（素振りをしながら）起きたか

陽毬　うん
父　お鍋にカレーあるからお腹空いていたら食べなさい
陽毬　お父さん、どうしたの？
父　（ちょっと嬉しそうに）押し入れから引っ張り出してきたんだ
陽毬　そうじゃなくて
父　ちょっと運動でもしようかなと思ってな
陽毬　そうじゃなくて
父　お父さんもな、小さな頃は野球少年だったんだぞ。お父さんの小さな頃は、テレビゲームなんか無かったし、サッカーとかテニスみたいなお洒落なスポーツも流行ってなかったからな。みんな野球少年だったんだ。みんな、バットを振って、キャッチボールをしたものなんだぞ
陽毬　……

蝉の鳴き声が聞こえる。ただ蝉の鳴き声が聞こえる。

父　夜なのに蝉がうるさいな
陽毬　そうだね
父　お父さんが小さな頃は夜に鳴く蝉なんかもいなかったな。夜はもっと涼しくて、静かで、そしてもっと暗かった。陽毬は蝉の成虫がどれだけ生きるか知っているか？
陽毬　一週間？
父　あれは俗説だよ。本当は約一月生きる。でもたった一月だ
陽毬　……
父　雄の蝉の体は鳴くことだけに特化しているし、雌の蝉の体は子供を生むことだけに特化している。だから長生きできない。七年間、真っ暗な地下でため込んだ命をたった一月、みんみんと、じーじーと鳴いて交尾をするためだけに使い切る。道理でうるさいわけだよ。あの鳴き声は求愛の声だ。みんみんと、じーじーと鳴きながら「愛して、愛して」と叫んでいるんだ。あるいは悲鳴を上げているんだ

父は淡々と素振りをしている。

父　陽毬、お母さんのことは好きか
陽毬　どうしたの急に
父　お母さんのことは好きか
陽毬　……勿論、好きだよ
父　じゃあ何があっても、お母さんを頼むな
陽毬　どうしたの急に

父　何があっても、お母さんを頼むな
陽毬　どうしたの急に
父　何があってもお母さんを頼むな
陽毬　そう言いながらお父さんはずっと金属バットを振っている。多分、お姉ちゃんを自殺に追い込んだ何かに向けて、お父さんはずっと金属バットを振っている

62, 61, 60, 59, 58, 57, 56, 55

陽毬　誤解の無いように先に伝える
灯里　このシーンを私は見ていない
陽毬　え？
灯里　え？
陽毬　そんなのあり？
灯里　ありなんじゃない？
陽毬　え？
灯里　え？
陽毬　え、怖い
灯里　え、怖い？　なんで？
陽毬　だってこれ私の走馬燈なんでしょ
灯里　そうだけど
陽毬　私の走馬燈で私が見てないことが出てくるなんてありなの？
灯里　陽毬の走馬燈だから陽毬の記憶が基本なんだけど後で知ったことを想像で補って走馬燈することだってあるんじゃないの？
陽毬　なるほど
灯里　そういうわけで
陽毬　このシーンを私は見ていない

康介の書斎。康介と泉水がいる。

康介　泉水
泉水　はい先生
康介　首絞めて
泉水　はい先生

しばらく、泉水は康介の首を絞めている。
少し心配になるくらいの時間絞めている。

泉水　（首を絞めたまま）先生
康介　……
泉水　（首を絞めたまま）先生
康介　……

泉水は、康介の首を絞めていた手を離す。

泉水　先生、死んでしまいます
康介　泉水
泉水　はい先生
康介　首絞めて
泉水　はい先生

しばらく、泉水は康介の首を絞めている。
少し心配になるくらいの時間絞めている。

泉水　（首を絞めたまま）先生
康介　……
泉水　（首を絞めたまま）先生
康介　……

泉水は、康介の首を絞めていた手を離す。

泉水　先生、死んでしまいます
康介　泉水
泉水　はい先生
康介　死ぬほど退屈だな
泉水　そうですか先生
康介　早く核戦争起きないかな
泉水　僕はどうせなら長生きしたいですけど
康介　それか隕石降ってこないかな。ほら恐竜絶滅させたやつみたいな。とんでもない大きさのさ
泉水　僕はどうせなら長生きしたいですけど
康介　泉水。隕石降らしてよ
泉水　先生。僕はどうせなら長生きしたいですけど

康介　泉水
泉水　はい先生
康介　首絞めて
泉水　……
康介　首絞めて
泉水　……最後までした方がいいですか？
康介　……
泉水　先生。最後までした方がいいですか？
康介　どっちでもいいけど

54, 53, 52, 51, 50

五人　五〇メートル
二人　（灯里、陽毬）残り五〇メートル
五人　で、
陽毬　私は地面に降り注ごうとしている
灯里　飛び降りる前にきちんと計算をした
父　私の落下速度はすでに時速百キロメートルを超えている
母　ただし空気抵抗は考えないものとする
睦実　だって計算が難しいから
泉水　地面に降り注ぐ頃には時速は一五〇キロメートルを超える
母　地面までの時間はおよそ一・五秒
男　絶対に気を失ったりなんかしてやらない
女　絶対に目をつぶったりなんかしてやらない
灯里　私の思考はかつてないスピードで回転して、
泉水　更に、
睦実　更に、
父　更に、
母　更に
康介　スピードを上げていく
陽毬　（遠くへ呼びかけるように）おねーちゃーん！
灯里　なーにー陽毬ー
陽毬　これだけ流れ星がいっぱいあったら、いっぱいお願い事できちゃうね
灯里　駄目だよ陽毬願い事は一つだけにしないと
陽毬　そうなの？
灯里　そうなの

陽毬　じゃあ、お父さんとお母さんとお姉ちゃんといつまでも幸せに暮らせますように

陽毬は流れ星に向かって祈っている。唐突に、

陽毬　お姉ちゃん！
灯里　なぁに、陽毬
陽毬　お姉ちゃんは何を願ったの
灯里　内緒
陽毬　えー
灯里　内緒
陽毬　えー
灯里　絶対に教えてあげないから
陽毬　本当に教えてくれなかった。教えてくれないまま十年後、地上百メートルから流れ星のように飛び降りた
五人　お姉ちゃんを殺した硬いコンクリートの地面には赤い血と肉片が散らばって
灯里　それは一時間後には綺麗に掃除されたけれど
父　罅に入り込んでしまったものまでは取りきることができず
睦実　よく見れば今もなお赤黒いものが罅に沿って広がっている
母　そもそもその罅はお姉ちゃんがつけたものだ
陽毬　お姉ちゃんは壁を砕くことはできなかったけれど、それでも確かに罅は入れた
五人　私は今、落下している
二人　お姉ちゃんの罅を目印に

49, 48, 47, 46, 45, 44, 43, 42

五人　二〇一一年三月一一日
灯里　私たちの国を大きな灰色の大津波が襲った
陽毬　それは幸い、私が住んでいるところからは遠い場所での出来事だったけれど、テレビに流れてくる映像を見て私は眠れなくなった
灯里　……東日本大震災から本日でちょうど二年です。警察庁によりますと、今月一日時点で東日本大震災による死者数は、一五八八〇人。行方不明者二六九四人。政府は今日午後、都内で追悼式典を開き……
陽毬　ベッドで一人震えていると、お姉ちゃんがそばに来てくれた。お姉ちゃんは私が眠るまで何も言わずに手を握って頭を撫でてくれた
陽毬　小さな頃何度も見せられた恐ろしい映像
泉水　同じ世代の人であれば誰でもピンとくるような

睦実　繰り返し
康介　繰り返し見せられた破壊の映像
灯里　つまり
女性　聳え立つ高層ビルに突き刺さり爆発する飛行機
男性　あるいは家を車を何もかもを飲み込んで進む灰色の津波
女性　でも一番は大きな太陽
男性　八月にこの国に落とされきのこ雲を広げた大きな太陽
陽毬　そんな映像を見るたびに私は怖くなって、時には泣いてしまった
灯里　怖くて、恐ろしくて、
陽毬　そしてなぜだか申し訳なくて
女性　ごめんなさい
男性　ごめんなさい
陽毬　と神様に謝った
灯里　小さな頃、私は私の世界の神様だった
泉水　環境問題も、
睦実　戦争も、
父　災害も、
母　神様である自分の責任のように感じた
女性　テレビで子供が死ぬ事件を見るたびに、
男性　遠い国で何万人もの子供が死んでいると聞くたびに、
六人　どうして私が代わってあげられないんだろうと
陽毬　私は、本気でそう思っていた

41, 40, 39, 38

陽毬　はい。日本メンタルヘルスライン。こころの１１９番相談局です
女性　私は罪深い人間です。考えちゃいけないんです。でもどれだけ頭から追い出そうとしても灯里の掌が。本当に小さくて。無事に生まれてきてくれて嬉しくって。ありがとうって。女の子かぁって。二人目は男の子が。この子を守れるような男の子がって
陽毬　はい。日本メンタルヘルスライン。こころの１１９番相談局です
男性　七年間、真っ暗な地下でため込んだ命をたった一月、みんみんと、じーじーと鳴いて交尾をするためだけに使い切る。道理でうるさいわけだよ。あの鳴き声は求愛の声だ。みんみんと、じーじーと鳴きながら「愛して、愛して」と叫んでいるんだ。あるいは悲鳴を上げているんだ
陽毬　そう言いながらお父さんはずっと金属バットを振っている

泉水　多分、お姉ちゃんを自殺に追い込んだ何かに向けて、
睦実　お父さんは金属バットを振っている
康介　一週間後、七月三〇日、
陽毬　つまり私の一九歳最後の日に、
灯里　その金属バットはお母さんに振り下ろされることになる
陽毬　あと一週間でこの物語は終わる
灯里　でもねえ陽毬。いくら一週間といっても全部やったら長すぎない？
陽毬　お姉ちゃん！
灯里　地面も近付いて来たことだし、そろそろクライマックスが見たいわ、私！
陽毬　じゃあ時計の針をぐるっと回して
五人　七月三〇日。午前〇時〇〇分
灯里　訂正。あと四八時間でこの物語は終わる
睦実　盗んじゃえばよくない？

陽毬の目の前には睦実だけがいる。

陽毬　盗む？
睦実　えー、ひーちゃんさ、万引きとかしたこと無い人？
陽毬　無い人だけど
睦実　あ、やっぱり？　なんかねー、万引きとかしない系だなーとは思ってて、でさ、お姉さん死んだのって、ちょうど今くらいの時間……〇時直後じゃない？
陽毬　え？
睦実　違う？
陽毬　そう……だけど
睦実　やっぱり

睦実はにやにやと笑っている。窓から下を覗き込み、陽毬を呼ぶ。

睦実　あれ
陽毬　？

陽毬も下を覗き込む。そこには人見康介がいる。

睦実　先生、日課になってるの。この時間、あなたのお姉さんが死んだ場所で、煙草吸うの。ウケない？

睦実は突然、声を出して笑う。陽毬は呆然とそれを見ている。

陽毬　……

睦実　え、ウケない？

陽毬　いやその

睦実　だからさ、毎日この時間は先生いないんだよ。で、一服する時くらいはさ、部屋の鍵かけてないときあるんだよね。ここだけの話

陽毬　え、

睦実　私たちがとった電話の音声は全部録音されてて四八時間ごとに消去されるようになってるんだけど、面白かった音声だけは先生のパソコンに保存しているの。ネタに使うから。ひーちゃんのお姉さんの死ぬ前の会話も絶対に先生のパソコンに残ってると思うんだよねー

睦実はＵＳＢメモリを取り出し、陽毬に差し出す。

睦実　馬鹿正直に先生の言うこと聞いててもどうせ教えてくれないよ。だからさー、盗んじゃえばよくない？

陽毬　……

陽毬は動けないでいる。猫宮はしばらくそんな陽毬を観察しているが、やがて彼女の手に無理やりＵＳＢメモリを握らせ、ニコリと笑い、去る。

37, 36, 35, 34, 33, 32, 31, 30

陽毬　じゅーじゅーと音がしているのは名前も知らないユーチューバーが巨大ハンバーグを焼く音で

母　やっぱり眠れない私はベッドの中でも適当な動画を流しっぱなしにしていて

父　私の頭の中はいつまでも騒がしくて

睦実　寝ている間はずっとお姉ちゃんの夢を見ていて

泉水　夢を見ているということは頭の芯からは眠れていないということで

康介　夢を見ているときはこれは現実かも知れないと思っていて

母　起きているときはこれは夢かも知れないと思っていて

五人　夢現（ゆめうつつ）の中で

男性　どうでもいいユーチューバーの声と

女性　電話から聞こえる死にたがりの声と

陽毬　お姉ちゃんの声がとにかく
男性　めまぐるしく
女性　めまぐるしく
五人　頭の中でぐるぐるとしていて、
陽毬　はい。日本メンタルヘルスライン。こころの１１９番相談局です
父　この仕事をしていて思うのは誰もが犯人を捜しているということで
睦実　自分を不幸にした死にたい気持ちにさせた犯人を捜しているということで
泉水　ほとんどの場合その犯人には顔が無くて
康介　姿も形も無いことが多くて
母　だから犯人を捜してほしくて電話をかけてきて
睦実　そうだ
陽毬　私も犯人を捜さなくちゃな、許しちゃいけない犯人を捜さなくちゃなって、
灯里　さて。皆さんお集まりいただきありがとうございます。早速犯人をお教えしましょう！
陽毬　と、夢の中でお姉ちゃんはお決まりの鹿撃ち帽を被って
父　お決まりのパイプ煙草を燻（くゆ）らせて
睦実　場所は当然断崖絶壁、足を滑らせば真っ逆さまの崖際で
陽毬　そう、ここはきっとドリーム東尋坊
女性　お姉ちゃんは人差し指を天に目掛けて高く掲げて
男性　よく通る声でお決まりの台詞を言う
灯里　犯人はお前だ！
陽毬　突然、後ろから肩を叩かれて私は驚いて振り返る
泉水　駄目ですよ。先生の書斎、勝手に入ったら
陽毬　あ、
泉水　なんの用ですか？
陽毬　いや、その
泉水　はい
陽毬　……
泉水　……あー、睦美ですか
陽毬　え
泉水　どうせ睦美が唆したんでしょ
陽毬　……
泉水　睦実に何言われたんですか？
陽毬　その……パソコンに、お姉ちゃんの、最後の会話の音声が残っているんじゃないかって

泉水　あぁー。そういえばお姉さんの自殺の真相知りたくて働いてくれてたんでしたね
陽毬　……
泉水　でも無理ですよ。パソコン普通にパスワードかかってますから
陽毬　……あ、そうですよね。その、すみません、このことは
泉水　はい。先生には黙っておきますので
陽毬　ありがとうございます

陽毬は出ていこうとするだろう。それを泉水は引き止める。

泉水　黙っておきますので
陽毬　え？
泉水　ちょっとお話しませんか？
陽毬　……
泉水　ちょっと飲み物でも買いに行こうかなと思ってて。良かったら付き合ってくれませんか？
陽毬　……
泉水　まぁ僕はどっちでもいいですけど

気が付くと舞台は夜の街である。
まばらに街をうろつく人影もあるだろう。
舞台中央では、人見康介が煙草を吸っている。
陽毬と泉水は歩きながら話している。

泉水　珍しいですよね
陽毬　……はい？
泉水　この時間に電話来てないなんて
陽毬　あぁ、そうですね
泉水　いつも月末は多いんですよ。やっぱり区切りだからですかね。〆切とか、月末とかが多いんでしょうね。自分の中で〆切作っちゃう人もいますしね
陽毬　自分の中の〆切？
泉水　八月まで頑張って生きてみようとか。金曜まで頑張って生きてみようとか
陽毬　……
泉水　誕生日に死ぬ人も大勢います。やっぱり踏ん切りなんですかねこういうの。二〇になっても何にもなれなかったんで死にますとか。三〇になっても相変わらず生きづらいので死にますとか。あ、
陽毬　え

泉水　明日でしたね誕生日。おめでとうございます
陽毬　あ、はい。ありがとうございます。
泉水　月末で二〇歳の誕生日ですか
陽毬　はい
泉水　死ぬにはいい機会ですね

間

泉水　あ、冗談です
陽毬　……
泉水　僕ね、全然死にたい人の気持ち分からないんですよ。だって、どうせなら長生きしたくないですか？　別に長生きしてしたいことあるわけじゃないですけど。でもどうせなら長生きしたくないですか？

間

陽毬　……よく覚えてましたね
泉水　え
陽毬　私の誕生日
泉水　あぁ
陽毬　はい
泉水　僕にとっても思い出深い日なので
陽毬　へぇ。何かあったんですか？
泉水　一九九九年七月三一日。あなたが生まれた日。僕、初めて先生に出会いました
陽毬　……
泉水　当時、僕たちはまだ小学生でした。夜の二四時手前のことでした。星を見るのが好きな僕は一人でマンションの屋上にいました。そこに先生もいました
陽毬　あの人も星を見に？
泉水　いえ、先生は飛び降りようとしてました
陽毬　……
泉水　予言が外れて、結局、とんでもない何かは起こらなくて、先生は死のうとしてました
陽毬　……泉水さんは、それでどうされたんですか？
泉水　口説きました
陽毬　は？
泉水　一目惚れでした

陽毬　……
泉水　顔が可愛かったので
陽毬　顔が、
泉水　可愛かったので
陽毬　……
泉水　それから二〇年。ずっと一緒にいます
陽毬　……
泉水　そして、二〇年。ずっと、退屈そうです。先生
陽毬　……

泉水はやがて立ち止まる。目の前には自販機がある。

泉水　何か飲みますか？　日野陽毬さん
陽毬　え、いや
泉水　あー、じゃあ。誕生日プレゼントってことで
陽毬　……
泉水　あ、でもー、こんなんじゃプレゼントにもなりませんかね。まぁちゃんとしたのは
明日にでも
陽毬　いや、その
泉水　で、何か飲みますか？
陽毬　……
泉水　ココアにしますか？
陽毬　ええと
泉水　ココアは健康にいいので。どうせなら長生きしたくないですか？

しばらくの間。唐突に、

泉水　僕ね、全然死にたい人の気持ちわからないんですよ
陽毬　……
泉水　ほんと。全然わかんないんですよね
陽毬　……
泉水　ねぇ、日野陽毬さん
陽毬　……何ですか？
泉水　折角だから、先生、殺してみませんか？
陽毬　は？
泉水　折角だから、先生、殺してみませんか？

陽毬　……

泉水　冗談です

29, 28, 27, 26, 25

陽毬　誤解の無いように先に伝える。このシーンを私は見ていない。なぜならこのとき私は泉水さんと話をしていたから。このときどんな電話があったかは、後からむっちゃんに聞いた

睦実　はい。日本メンタルヘルスライン。こころの１１９番相談局です。あれ？　あー、ひーちゃんのお母さん！　すみませんひーちゃん、席外してて―

間

睦実　はい。え？　ひーちゃんはひーちゃんです。あなたの娘の日野陽毬さん。あなた娘さんにずっと電話してたんですよ。あー、ほんと気付いてなかったんですね。普通気付きません。娘の声ですよ。ウケる

睦実は声を出して笑う。唐突に、

睦実　え？　ウケません？

「プツン」と。

電話の切れる音。やがて、「ツーツー」という音があなたの耳に届くだろう。

陽毬　早朝、家に帰るとお父さんとお母さんが死んでいる

死体、死体、血液、金属バット。

陽毬　お母さんは血だらけで、そばには金属バットが転がっている。その近くでお父さんは首を吊って死んでいる。長身のお父さんが首を吊れる場所が我が家にあったのか。そんなことを私は考えている

陽毬　救急車、とか、そんなことはなぜか考えなかった。どう見ても死んでいる。完全に死んでいる。机の上には、お父さんのやけに几帳面な文字で一言「陽毬、ごめん」と書いたメモがある

陽毬　やけに几帳面な、綺麗な文字、それが、気になった。ゴミ箱を漁る。粉々に千切られた紙くずが見つかる。お父さんは本当にだらしない。靴下だってよく脱ぎっぱな

しだったしそれでよくお母さんに怒られてた。本当に見せたくない物ならばこんな雑に消したって駄目なんだ。パズルのように紙くずを並べ綺麗に揃える。出てくるのはやっぱりお父さんの文字。こっちは全然綺麗じゃない。破られてなくてもなかなか読めないような書き殴った文字。私はお父さんの本当の遺書を読む

陽毬　灯里を殺した奴を許すな

24, 23, 22, 21, 20, 19̄

陽毬　救急車が来たり、警察が来たり、事情聴取を受けたりしているうちに目まぐるしく時間は過ぎる。全部カットする。今日は一睡もしていない。そもそもお姉ちゃんが死んでからきちんと眠っていないような気もする。頭はぐるぐる回っている。ちょっとトイレにとか、夜風に当たりたくてとか、どんな嘘を言って外に出たのかは覚えていない。きっとどうでもいいことだから。二二時。いつもの仕事の開始時間、私は人見康介と会っている

康介　もう来なくていいよ

陽毬　え？

康介　もう来なくていい

陽毬　え？

康介　姉は自殺して父親が母親殺して父親もやっぱり自殺してお前さ、今がピークだろ。もう今以上に面白いこと起きないだろ。だからもう君いいよ

陽毬　え？　ちょっと待ってください

康介　じゃあそういうことで

陽毬　ちょっと待ってください。お姉ちゃんは！

康介　は？

陽毬　お姉ちゃんはなんで死んだんですか？

康介　本人に聞けよ

陽毬　教えてください。お願いします。絶対にそれを突き止めないといけないんです。お願いします

康介　お前結局さ、お母さん飛ばせられなかったろ。見たかったけどな。親子続いての飛び降り自殺。だから駄目。残念

陽毬　……音声が

康介　ん？

陽毬　音声が残ってるんじゃないんですか？　姉があなたとした最後の会話の。お願いです。それだけでも聞かせてください。お願いです。お願いです

康介　あー

陽毬　……

康介　あれならさっき消した
陽毬　は？
康介　君のお姉さんネタにした小説昨日納品したから。もういらないんだ。そうだ原稿料半分やるよ。手切れ金
陽毬　そんなのが欲しくてやってたんじゃないんです。教えてください。姉がなんで自殺したのか。お願いです教えてください
康介　じゃあ生でやらせて
陽毬　は？
康介　今すぐ全部脱いでさ。一回生でやらせて。そうしたら教えてあげる、なんで死んだか。やらせてくれないなら教えてあげない。どうする？　決断早い人は好きだよ。遅い人はつまらないから嫌いだよ。で、どうする？　僕はどっちでもいいけど
陽毬　……

陽毬は自分の衣服に手をかける。
ボタンを開け始めたところで、康介が声を出して笑う。

康介　ごめんごめん、僕、女じゃ勃たないんだ
陽毬　……
康介　さっきも言ったけどさ、君、今ピークだよ。あとは落ちるだけおしまい。じゃ、さよなら

康介がはけようとする。その手を無言で、陽毬は無言で掴む。

康介　え、何？
陽毬　……

陽毬は無言で再び服を脱ぎ始める。ボタンを一つ、また一つ外していく。

康介　（興味なさそうに）やめてくれない？

陽毬はやめない。ボタンをすべて外し終えると、シャツを脱ぎ捨てる。康介の前に屈み込み、彼のベルトを外し始める。しばらくお互い喋らない。

康介　……
陽毬　……

やがて。とうとう、康介が口を開く。

康介　じゃあさ、核爆弾落として

陽毬　（思わず手を止め）……は？

康介　できないなら隕石降らせて。ほら恐竜絶滅させたやつみたいな。とんでもない大きさのさ

陽毬　……

康介　それもできないなら空を落として。地面を崩して。太陽を落として。月を落として。なんでもいいからさ滅茶苦茶なものを見せて

陽毬と康介はしばらく睨み合っている。

それを、ひょっとしたら二兎泉水は見ているかも知れない。

泉水　……

康介　もっとさ、なんかさ、無いの？

陽毬　……

康介　あー、つまんね

吐き捨てるように告げ、康介が去る。

しばらく、陽毬は呆然としているが、やがて衣服を整え、去る。

泉水　……

舞台には、二人を盗み見ていた、泉水だけが残される。

18, 17, 16, 15, 14, 13, 12

陽毬　二四時近くになっても私は夜の街を歩いている。あと数分で今日が終わり私の一九歳が終わる。七月三一日。私の二〇回目の誕生日は水曜日で水曜日は星座占いのブログの更新を意味する。行くあてもなく歩きながら私は私の正気を保つためブログを書いている

雑踏の中を陽毬は歩いている。

灯里　おめでとう！　今週の第一位は獅子座のあなた！　今までの苦労が嘘のよう！　あなたの大逆転勝利です！

泉水　おめでとう！　今週の第一位は獅子座のあなた！　最高の運勢です！　きっと何もかもうまくいきます！　きっと何もかもうまくいきます！

睦実　おめでとう！　今週の第一位は獅子座のあなた！　今までのことはすべて悪い夢！　これからあなたの本当の人生が始まるでしょう！

母　（拍手しながら）誕生日おめでとう！　陽毬！

父　（拍手しながら）誕生日おめでとう！　陽毬！

灯里　（拍手しながら）誕生日おめでとう！　陽毬！

陽毬　お母さん！　お母さん！

母　なぁに陽毬

陽毬　私の誕生日とお姉ちゃんの誕生日は、どっちが嬉しいの？

母　それはお母さんには選べないわ。だって、灯里が生まれてくれたことも、陽毬が生まれてくれたことも本当に嬉しくて、私が生まれてから一番嬉しかったのはこの二つで

灯里　女の子かぁって、

母　だからねどっちも一番で、どっちも一番に愛してるわ

父　父さんはね、灯里の歯形を取り寄せたよ。正直なこと言うと最初はそれが灯里だって分からなかったから。照合の間、どうにか間違いであってほしいと祈った。必ず間違いであってくれと祈った。あの祈りはどこにいったんだろうなぁ

灯里　愛して愛してとみんみんとじーじーと鳴きながら

父　灯里を殺した奴を許すな

灯里　どうして泣いているの陽毬

陽毬　だってお姉ちゃんだって

灯里　だってじゃあわからないよ陽毬

陽毬　だってお姉ちゃんだって

灯里　怒るの陽毬

陽毬　だってお姉ちゃんだって

灯里　許せないなら怒るの陽毬

陽毬　だってお姉ちゃんだって

灯里　怒るの陽毬、怒らなくちゃいけないの陽毬、たとえ相手が謝ろうと反省しようと怒らなくちゃいけないの

陽毬　だってお姉ちゃんだって

灯里　だって悪逆は許せないでしょう陽毬、理不尽は許せないでしょう陽毬、非合理は許せないでしょう陽毬、無秩序は許せないでしょう陽毬

陽毬　だってお姉ちゃんだって

灯里　だってなんなの？　陽毬

陽毬　だって、お姉ちゃんだって、私分かってるから

灯里　何が分かっているの？　陽毬
陽毬　だって悪いのは私だって分かっているから
灯里　小さな頃、私は私の世界の神様だった
泉水　環境問題も、
睦実　戦争も、
父　災害も、
母　神様である自分の責任のように感じた
女性　テレビで子供が死ぬ事件を見るたびに、
男性　遠い国で何万人もの子供が死んでいると聞くたびに、
六人　どうして私が代わってあげられないんだろうと
陽毬　おねーちゃーん
灯里　なーにー陽毬ー
陽毬　私がお姉ちゃんの代わりに死んでれば、よかったのにねー
灯里　七月三一日。午前〇時ちょうどをお知らせします

時報の音。

泉水　あ、

雑踏の中。ふと、見知った男と目が合う。
二兎泉水だ。いつもの温和な笑みを浮かべ、泉水は近付いてくる。

泉水　日野陽毬さん！　良かった！
陽毬　泉水さん……？
泉水　見つかって良かった、ハッピーバースデー！
陽毬　え、
泉水　ハッピーバースデー！　これ！
陽毬　え

泉水は陽毬に何かを差し出す。それは小さな小さなＵＳＢメモリ。

泉水　ハッピーバースデー！　プレゼント！　これ、お姉さんの最後の音声です
陽毬　え
泉水　これ聞いたらお姉さんなんで自殺したか分かりますよ、おめでとうございます！
　ハッピーバースデー！
陽毬　え、

泉水　ハッピーバースデー！　二〇歳おめでとう！
灯里　おめでとう！　今週の第一位は獅子座のあなた！　今までの苦労が嘘のよう！　あなたの大逆転勝利です！

ＣＡＬＬ音

睦実　はい。日本メンタルヘルスライン。こころの１１９番相談局です。
陽毬　それは身内の私でも思うほど、本当にしょうもないものだった
灯里　初めて、本当に人を好きになって
康介　へー
灯里　二五歳にもなって多分初恋で。恥ずかしいですけど
康介　別によくあるよ。で？
灯里　でも、好きになってから知ったんですけど、好きになっちゃいけない人で。つまりその、言いづらいんですけど既婚者で
康介　それもよくあるよ。で、
灯里　奥さんもとてもいい人で。お子さんも一人いて。でもどうしても、どうしても忘れられなくて
康介　あるある。で？
灯里　自分が惨めで情けなくて罪深く感じて仕方なくて、
康介　そ。で？
灯里　死にたいって思って。とりあえず高いビルの屋上に行ったんです。というか今いるんですけど、
康介　高いってどれくらい？
灯里　百メートルくらいあるらしいです
康介　へぇ、それはあんまないよ。どこのビル？
灯里　えーと、青松ビルっていう、いや、そんなこと言ってもよく分かんないですよねすみません
康介　いや、分かる。というか奇跡。近所じゃん
灯里　え
康介　わー、お姉さん見えるよ、へーこれは新しいな、ねーそこから飛んでよ
灯里　え
康介　え
灯里　え
康介　え、死ぬ勇気欲しくて電話してきたんじゃないの？　大丈夫、保証してやるよ、これから生きててもいいことなんかないよ
灯里　……

康介　どうせつまらないことの繰り返しだよ、その男のことはいずれ忘れるだろうけど、どうせ似たようなことを繰り返すよ、死んで後悔することは無いよ、逆に死ななきゃ絶対後悔するよ、僕には分かるよ、あのとき、あと一歩勇気出しときゃなぁって、あのとき馬鹿な奴が止めなきゃなぁって．大丈夫、君なら飛べるよちゃんと見ててあげるからさ、さぁさぁさぁさぁさぁさぁさぁ、

灯里　……

しばらくの間。灯里は動けないでいる。

唐突に、

康介　なんちゃって

灯里　……はい？

康介が優しく笑い始める。

灯里は戸惑っている。

康介　（笑ったまま）こんだけさ、死ね死ね言われると逆に、死ぬ気力無くならない？

灯里　え？

康介は更に優しく笑っている。

灯里　えっと、はい、はいそうですね

灯里も緊張の糸が切れたのか少し笑う。

それはだんだんと大きくなる。

安心しているように見える。

二人は笑い合っている。

場違いな、温かな物が流れているように見える。

康介　お姉さんさ。死ねって言われて死にたくないって思えたなら、本当は死にたくないんですよお姉さんは。生きたいって、自分の気持ちに嘘ついてる。……まずは、その気持ちに大事にしてあげて。分かる？

灯里　分かる、気がします

康介　今、百メートルもの高さのビルの屋上にいる。うん、見えるよお姉さん。そんな高さまで凄いなあ。勇気がある。行動力もある。お姉さんさ、ひょっとして昔、学級委員とか、部活のリーダーとかひょっとしてそういうのやってるタイプじゃなかっ

た？

灯里　え？　はい、そうです。学級委員よくやってました。生徒会長もやってたことあります

康介　凄いね。みんなの見本だったんだね

灯里　いえ、そんなこと

康介　家族仲も良かったんじゃないかな。少し話しただけでもね、育ちの良さを感じるよ。お父さんにもお母さんにも愛されて育った。一人っ子？

灯里　いえ

康介　でも、上にはいないんじゃないかな。弟か、妹か、

灯里　はい、妹が

康介　妹さんはどんな人？

灯里　え？　えっと……陽毬は……その……私よりもその……女の子らしい子で、少し頼りなくって、ちょっと泣き虫で……

康介　へぇ

灯里　私はすぐカッとなっちゃうことがあって、泣き虫の陽毬には怒ってばかりで……でも、本当に良い子なんです……私がひどいこと言っちゃっても、すぐにお姉ちゃん、お姉ちゃんって後ろをついてきて、

康介　じゃあ妹さんとは仲良いんだ

灯里　はい、良い方だと思います。妹は私のことをすごい好いてくれていて

康介　でも妹さんが思ってくれるほど妹さんのことが好きではない

灯里　え……

間。

やはり唐突に、

康介　ご両親どんな人？

灯里　えっと……両親は、……父も母も学校の先生をやっていて……立派な人です。教師としても親としても……私のことも妹のこともとっても、大切にしてくれていて

康介　でも君は今百メートルの高さにいる

灯里　……

康介　重い？

灯里　その、

康介　それとも羨ましい？

灯里　その、

康介　あーこれか。……ひとりぼっちだ

灯里　……

しばらく二人は何も言わない。

康介　分かるよ。でも、それは一生つきまとうものだ。君が、自分自身を変えない限り。でもね、君なら大丈夫だよ。君にはその勇気と行動力がある。君ならきっと、今からまた前向きに頑張っていけるよ

康介は窓から、じっと、灯里を見つめている。

灯里は動けないでいる。

康介　じゃあ一回、深呼吸して。まず、フェンスの内側に戻ってみようか

灯里　……

灯里は動けないでいる。スマートフォンを強く握る。

康介はそんな彼女をじっと見つめている。

声には出さず、笑みを浮かべる。

康介　そんなに勇気あるのに。まだふんぎりはつかない？

灯里　……すみません

康介　……じゃあ、運命信じてみましょうか

灯里　運命

康介　そうだな。お姉さんさ、何座？

灯里　え？

康介　ほら。星占い。十二星座。あるでしょ。何座？

灯里　蟹座です

康介　じゃあ今から星座占いのサイト、どこでもいいからさ、見てみてさ。最下位だったら死のっか

灯里　え、

康介　最下位じゃなかったら頑張って前向いて生きていこう。十二分の一を免れた。運命だったってことだ。どう？　勇気もらえない？

灯里　運命

康介　そう、運命

灯里　……分かりました

康介　……

灯里　試してみます、自分の運命

電話を切る。そのまま灯里はスマートフォンの画面を見つめている。
同じスマートフォンを陽毬も見つめている。姉の形見のスマートフォンを。

陽毬　私はお姉ちゃんのスマートフォンを見ている
陽毬　馬鹿だ私は。そうだ。最後の着信履歴なんかはちゃんと見たのに、最後の閲覧履歴は見ていなかった。ブラウザの。お姉ちゃんが死ぬ直前に見ていたサイト
陽毬　表示されたのは、随分と見慣れた文章で、
陽毬　残念。今週の最下位は蟹座のあなた。思わぬところに落とし穴。決断は早くするのが良いでしょう。ラッキーアイテムは鳥の卵

灯里が一歩を踏み出す。

陽毬　そしてお姉ちゃんは飛んだ
陽毬　お姉ちゃんが飛んだのは地上百メートル。断崖絶壁足を滑らせば真っ逆さまの崖際で、そうここはきっとドリーム東尋坊、お姉ちゃんは人差し指を天に目掛けて高く掲げて、よく通る声でお決まりの台詞を言う

声　犯人は、
陽毬　犯人は、私だ
声　灯里を殺した奴を許すな

11, 10, 9, 8, 7, 6

陽毬　暗い暗い夜の空を私は今落下している。私を許せない私は今、夜の空を落下している。七月三一日、二三時五九分過ぎ
四人　『高く、硬い壁と、そこにぶつかって割れる卵があれば、私は常に卵の側に立つ』
泉水　と、いうのは、
睦実　某作家がエルサレムでした
父　随分と有名になったスピーチの一節で、
母　その後にはこのような言葉が続く
四人　『たとえ、どれほど壁が正しくて、どれほど卵が間違っていたとしても、私は卵の側に立つ』
陽毬　感動的な言葉だと思う
泉水　素晴らしい言葉だとも思う
睦実　でも私としてはこうも思う
父　いくらなんでも卵を馬鹿にしすぎなんじゃないだろうかって

母　卵だって、いつまでも壁にぶつけられて砕けるつもりでいるわけじゃない
泉水　何度砕けようと、
睦実　無数の同胞の亡骸の果てに、
父　やがて硬い壁を貫き、
母　打ち砕く
四人　卵にだってそれくらいの自負はあるのかもしれない
陽毬　少なくとも私はこう思っている
四人　「私は負けない」
四人　「絶対に目を閉じたりなんてしてやらない」
四人　「絶対に気を失ったりなんかしてやらない」
陽毬　私には目的地がある
泉水　それはお姉ちゃんのつけた罅
睦実　お姉ちゃんの残した赤黒いシミ
父　そこをめがけ私は落下する
母　そしてそこにはあいつがいる
四人　犯人は誰だろう？
陽毬　犯人は私だ
四人　私は私を許すわけにはいかない
陽毬　でももう一人許せない奴がいる
四人　時速はもう一五〇キロメートルを超えている
陽毬　あいつはきっとそこにいる。悪趣味なことにいつだって二四時手前に、この罅の横でお姉ちゃんの嫌いな煙草を吸っているんだ
五人　私は今怒っている。とてもとても怒っている
陽毬　燦々と輝く太陽の下で、幼い私が泣いているのを私は見ている。私が私を見ているなんて変だから夢なんだと気づく。蝉の鳴き声が聞こえる。蝉に負けじと私は泣いている
二人　違うよ陽毬
二人　あなたは泣いているんじゃない
二人　悲鳴を上げているの
二人　残り五〇年以上ある寿命を五秒で使い切って
四人　愛して愛してと悲鳴を上げているの
陽毬　お姉ちゃんは最後に自分の運命を試した
四人　だったら私も自分の運命を試してみよう
陽毬　ただし試すのは私の運命だけじゃない
四人　時速一五〇キロメートルで私が地球にぶつかるとき、
陽毬　地球も私に時速一五〇キロメートルでぶつかることになる

四人　これは勝負だ
陽毬　私は負けない
四人　私が決める私の今週の運勢。第一位は獅子座のあなた
陽毬　小さな頃、何度も見せられた恐ろしい映像。同じ世代の人であれば、誰でもピンとくるような、繰り返し繰り返し見せられた破壊の映像。つまり、聳え立つ高層ビルに突き刺さり爆発する飛行機。あるいは家を車を何もかもを飲み込んで進む灰色の津波。でも一番は大きな太陽。八月にこの国に落とされ、きのこ雲を広げた大きな太陽
陽毬　太陽の毬と書いて陽毬と名付けられた私は、
五人　今、確かに、今、今だ。今この瞬間。一つの太陽として降り注ごうとしている
陽毬　私は、許さない

5, 4, 3, 2, 1

ぶつり、と、世界は暗闇に包まれる。
一瞬にして匂い立つような暗闇があなたを襲う。

しばらくの間。
少し不安になるくらいの長い間。
その後、暗闇の中、小さな、小さな炎が突然灯る。
次第に明るくなっていく。
突然現れたのはライターの炎であった。
ライターを手にしているのは人見康介。
夜の街。
床には赤黒いシミ。
彼は煙草を吸っている。

康介　……

彼は、悠長に煙をふかすだろう。
一服を終え、床のシミで煙草の炎をもみ消す。

康介　……

物音か。気配か。
ふと、彼は頭上を見上げる。

空から、

サカシマ　Fin

参考文献

村上春樹エルサレム賞受賞スピーチ（文藝春秋二〇〇九年四月号掲載。翻訳したうえで引用）

自殺予防いのちの電話　理論と実際（日本いのちの電話連盟　編　ほんの森出版）